

総合型地域スポーツクラブとは

現在、スポーツは、「競技」だけでなく「レジャー」や「レクリエーション」、「健康づくり」、「家族や友人とのコミュニケーション」など様々な目的で多くの人々に親しまれており、我々の生活に深く浸透している文化の一つです。2011年6月に公布されたスポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であると、スポーツに関わる権利が明記されました。しかしながら、成人の週1回以上のスポーツ実施率(2009年)は45%程度であり、特に20~40代の世代で低い状況にあるなど、まだまだスポーツをしたくてもできない状況にある人が数多く存在しています。また、子どものスポーツ環境に目を向けても、スポーツをする子としない子の二極化や、少子化に伴う運動部や青少年のスポーツクラブの人数不足など多くの課題が存在しており、まだまだ権利としてのスポーツが全ての人々に保障されている状況とは言えません。

総合型地域スポーツクラブは、年齢や性別、スポーツの得意・不得意に関係なく、誰もが継続的にスポーツを楽しむことが出来る環境を目指した新しい地域スポーツクラブの形態です。文部科学省によるモデル事業から始まり、2011年時点で全国に3,241ものクラブが創設され活動しています。その特徴は以下の通りとなります。

総合型地域スポーツクラブの特徴（文部科学省、スポーツ振興基本計画、2000年）

- 複数の種目が用意されている。【多種目】
- 子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで、地域の誰もが年齢、興味・関心、技術・技能レベルなどに応じて、いつまでも活動できる。【多世代】【多志向】
- 活動の拠点となるスポーツ施設及びクラブハウスがあり、定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。【拠点施設】
- 質の高い指導者の下、個々のスポーツニーズに応じたスポーツ指導が行われる。【指導者】
- 以上のようなことについて、地域住民が主体的に運営する。【地域住民による運営】

つまり、「総合型」地域スポーツクラブとは、種目の総合性（多種目）、仲間や世代の総合性（多世代）、レベルや目的の総合性（多志向）といったスポーツの「総合性」を確保することで、すべての住民が、地域社会という身近な環境で、ライフステージに応じたスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指した取り組みです。さらに総合型クラブの意義は、スポーツ振興にとどまるものではありません。近年、様々な自然災害や社会問題をきっかけに地域コミュニティの重要性が再認識されていますが、総合型クラブは、スポーツ活動を通して多くの人が集い楽しむことによって、地域社会の再建や新たなコミュニティの創造を目指した活動でもあり、その効果が期待されています。また、総合型クラブは、それらの目的を達成するために、イベントや教室などのスポーツサービス

を提供するスポーツ経営体としての機能を持っており、その事業はスポーツに限らず、音楽や絵画・伝統芸能などの文化活動や、防犯や清掃活動などの社会活動にまで広がってきています。そして、総合型クラブの運営は、会員である地域住民自身の対話と自治によって支えられています。それは行政による上からの公共ではなく、住民一人一人が地域を支え、運営する「新しい公共」に基づいた取り組みであるといえます。

このように様々な意義や特徴を持った総合型クラブですが、クラブの根本はそこに集う「人」にあります。会員をはじめとした地域の方々が、総合型クラブに集うことで、スポーツライフ・クラブライフを楽しむことが最も大切なことといえるでしょう。

東海大学健康クラブは、東海大学と伊勢原市の包括提携によりその準備が始まり、2010年に設立した神奈川県でも珍しい大学が中心となった総合型クラブです。東海大学の持つ施設や教員・学生、豊富なノウハウなどの資源を、伊勢原市の住民に還元する仕組みであるとともに、学生の教育、研究の場としての性格も備えています。今後は住民の方々がクラブの運営に参画する環境を整えることで、住民の方々の要望が反映される真の伊勢原市の総合型クラブとして発展していきます。